

## 巽櫓、東御門に次ぎ、伝統工法で復元

1) 施設名	駿府城 二ノ丸 坤櫓（その他の施設）
2) 所在地	静岡市葵区駿府城公園 1-1
3) 事業実施主体	静岡市（都市局都市計画部公園整備課）
4) 設計者	（有）建築文化研究所（京都市）
5) 施工者	清水・鈴与特定建設工事共同企業体（静岡市）
6) 工期	平成 23 年 12 月～平成 25 年 12 月
7) 施設概要	木造軸組構造 二層三階（建築基準法では木造 2 階建）
8) 規模（延面積）	縦横七間四方、高さ七間（約 14m） 建築面積 253.57m <sup>2</sup> （391.08m <sup>2</sup> ）
9) 主な使用樹種	櫓（静岡県産、奈良県産）：柱、貫、床版 杉（静岡県産）：小屋桁、小屋束、小屋貫、タルキ、天井化粧裏板 松丸太（島根県産）：梁
10) 施設の特徴等	坤櫓（ひつじさるやぐら）は、徳川家康公大御所時代の居城である駿府城二ノ丸の南西の角に立つ櫓で、安政大地震で倒壊したと考えられている。 復元にあたり、「駿府御城惣指図」、「駿府御城内外覚書」と呼ばれる現存資料を参考とし、可能な限り忠実に復元された。 櫓は伝統的な木造建築工法を用い、柱や梁の結合部は継ぎ手や仕口と呼ばれる加工を施し組み上げ、土壁も竹小舞（たけこまい）と呼ばれ竹を格子状に組み、そこにワラを混ぜた土を塗り、漆喰仕上げを施された。 坤櫓は、平成元年の巽櫓（たつみやぐら）、平成 8 年の東御門（ひがしごもん）に次ぐ、3 番目の復元施設である。

### 【施設の画像】（左上から、時計回り）

- ① 白亜の櫓外観、② 上棟時・小屋組み、③ 三層部の構造、④ 1 階内部

